

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名 一般国道1号小田原箱根道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局								
起終点 自：神奈川県小田原市風祭 至：神奈川県足柄下郡箱根湯本	延長			2.2 km								
事業概要 一般国道1号は東京都中央区日本橋を起点として横浜市、小田原市、清水市、名古屋市、四日市市および京都市を通過し、大阪市に至る延長約570kmの主要幹線道路で、神奈川県においても横浜・川崎地区と小田原・箱根地区を連絡する重要な路線である。小田原箱根道路は、小田原市風祭から箱根町山崎における交通混雑の抜本的解消と国道機能の回復を目的とした延長2.2kmのバイパス事業である。												
H2年度事業化		H2年度都市計画決定	H4年度用地着手									
全体事業費		約190億円	事業進捗率 92%									
計画交通量		35,700台/日										
費用対効果分析結果 ⁽¹⁾	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 5.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 21/37億円 (事業費：11/27億円) (維持管理費：10/10億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 115/115億円 (走行時間短縮便益：92/92億円) (走行費用減少便益：13/13億円) (交通事故減少便益：10/10億円)	基準年 平成16年								
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される） ・個性ある地域の形成（早川水辺プラザ整備計画を支援する） 他13項目に該当												
関係する地方公共団体等の意見 小田原箱根道路は、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、神奈川県、神奈川県道路利用者会議、道路整備促進期成同盟神奈川県協議会等の6団体より建設促進の要望(平成16年11月30日)を受けている。												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 近年の入湯客数が増加傾向にあることから、周辺の観光利用も増加し、今後も益々混雑していくことが想定される。												
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成16年度に段階供用する予定である。残事業は、国道1号と接続する山崎IC立体部である。												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 一部において用地買収に時間を要したが、平成16年度に段階供用する予定である。引き続き、山崎IC立体部の用地買収及び工事を進め平成19年度に完成供用する予定である。												
施設の構造や工法の変更等 工事施工にあたっては、コスト縮減に資する工法や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、併せて整備効果の早期発現を図るよう事業を推進する。												
対応方針		事業継続										
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。												
事業概要図												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">凡</td> <td>例</td> </tr> <tr> <td>———</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td>▨▨▨▨</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td>▨▨▨▨</td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>		凡	例	———	供用中	▨▨▨▨	再評価箇所	▨▨▨▨	うち供用中			
凡	例											
———	供用中											
▨▨▨▨	再評価箇所											
▨▨▨▨	うち供用中											

(1) 事業全体の費用便益分析は、既供用区間を除く間を対象とした費用便益分析を行っている。
総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。